

平成 26 年第 1 回

札幌市教育委員会会議録

※ 非公開に係る議案を除く

平成26年第1回教育委員会会議

1 日 時 平成26年1月10日（金） 13時30分～14時30分

2 場 所 S T V北2条ビル4階 教育委員会会議室

3 出席者

委員長	山 中 善 夫
委員	臼 井 博
委員	池 田 光 司
委員	阿 部 夕 子
委員	町 田 隆 敏
教育次長	西 村 喜 憲
生涯学習部長	梅 津 康 弘
生涯学習推進課長	田 中 祥 之
生涯学習係長	近 藤 光 雄
生涯学習係員	永 山 明日香
学校教育部長	金 山 正 彦
指導担当部長	引 地 秀 美
指導担当課長	檜 田 英 樹
指導担当課長	齊 藤 隆 浩
指導担当係長	工 藤 真 嗣
指導担当係長	山 田 健 一
教育研修担当部長	大 友 裕 之
総務課長	杉 村 亮
庶務係長	井 上 達 雄
書 記	市 川 涉

4 傍聴者 0名

5 議 題

議案第1号 平成26年度札幌市学校教育の重点について

議案第2号 札幌市社会教育委員条例の一部を改正する条例案に係る意見
について

【開 会】

○山中委員長 これより、平成26年第1回教育委員会会議を開会いたします。

本日の会議につきましては、会議録の署名を臼井博委員と池田光司委員にお願いいたします。

また、池田官司委員から所用により本日の会議を欠席される旨のご連絡がありました。

本日の議案第2号は、議会の議案についての意見の申し出に関する事項のため、教育委員会会議規則第14条第4号の規定によって公開しないこととしたいと思いますが、いかがでしょうか

(「異議なし」と発言する者あり)

○山中委員長 それでは、本日の議案第2号につきましては、公開しないことといたします。

【議 事】

◎議案第 1 号 平成26年度札幌市学校教育の重点について

○山中委員長 それでは、議案第 1 号について、事務局からご説明をお願いいたします。

○指導担当部長 「札幌市学校教育の重点」は、各学校の学校経営や教育課程の編成・実施、生徒指導等に生かすために、特に重点となる施策や教育内容について、教育委員会が毎年策定しているものです。

本日は、平成26年度版の内容について決定していただくため、本案を提出いたします。

この平成26年度「札幌市学校教育の重点」につきましては、昨年12月13日の教育委員会会議に作成の方針等について提案し、以下、説明いたします5点についてご了承いただいたところです。

まず、1点目といたしましては、「札幌市学校教育の重点」の主たる柱として、生きる力としての学ぶ力、豊かな心、健やかな身体の育成を目指す「知・徳・体」の調和のとれた教育と、平成21年度よりすべての市立幼稚園・学校で推進してきた札幌らしい特色ある学校教育を明確に示すこと。

2点目は、平成26年度から新たな札幌市教育振興基本計画が施行されることから、目指す人間像である「自立した札幌人」を踏まえ、札幌市の学校教育が目指す子ども像を示すこと。

3点目は、新計画の前期アクションプランにおける重要項目となっている、「分かる・できる・楽しい授業」の推進、課題探究的な学習、進路探究学習、命を大切にする指導の充実、子どもが安心して学べる支援体制の充実、札幌らしさを実感するとともに国際性を育む学びの充実について、学校教育の重点においても明確に位置づけること。

4点目は、校種間連携を学校教育の今日的課題に位置づけること。

そして、最後に5点目といたしまして、今年度同様に保護者や市民を対象とした概要版を別途作成すること、以上の5点です。

なお、今回は、これまで推進してきた重点の内容をよりわかりやすく周知し、また発達の段階を重視した内容や校種間連携など新たな内容を盛り込むため、冊子として発行することとしております。

前回の教育委員会会議後、教育委員の皆様には、原稿案についての協議を2回していただき、ご意見を頂戴しながら事務局として検討を重ねてきました。また、その間、園長会・各校種の校長会の代表からなる意見を聞く会を2回開催しております。

それでは、資料に基づき、平成26年度版の主な内容について説明いたします。

まず、表紙については、これまでの協議で札幌の四季や子どもの姿が見えるようなデザインにすべきとのご意見を踏まえ、事前に3種類ほどお送りしましたが、その後、事務局で再度検討し、本日、別途配付しました水色の表紙案を事務局案として提案いたします。

それでは、冊子の表紙裏ですが、平成26年度からの新計画における目指す人間像と基本的方向性を受けた形で、平成26年度札幌市学校教育の重点の構造図を示しました。

次に、右側の1ページには、新計画の概要を示すとともに、次の2ページで新計画の前期アクションプランの施策体系を示しております。

続いて、3ページでは、目指す人間像である自立した札幌人を踏まえた札幌市の学校教育が目指す子ども像について、発達の段階別に表の形で示しております。

続きまして、4ページから7ページまでは、「知・徳・体」の調和のとれた学びの三つの柱のうちの一つである学ぶ力の育成について掲載しております。

4ページ、5ページには、これまでの成果と課題を踏まえて教育委員会が進める「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン」と、各学校が作成し実行する「『学ぶ力』の育成プログラム」について示しております。

6ページには、発達の段階ごとの指導のポイント等を、また、7ページには、新計画において重要項目となっております進路探究学習について示しております。

続いて、8、9ページには、「知・徳・体」の調和のとれた学びの三つの柱の二つ目の豊かな心の育成について掲載しております。

豊かな心の育成につきましては、自己肯定感・自己有用感を醸成することが重要であることから、8ページの左上には、自己肯定感・自己有用感の指標となる「自分にはよいところがある」と思う子どもの割合の推移のグラフを掲載するとともに、道徳教育の充実などにより、自己肯定感を高めるなど、豊かな心の育成を図ることについて示しております。

なお、中段以降の命を大切にす指導の充実、いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応については、札幌市としても喫緊の課題でありますので、枠に色をつけ明確に示す工夫をしております。

9ページには、発達の段階ごとの指導のポイント及び道徳教育の指導のポイントを示しております。

続きまして、10、11ページは、「知・徳・体」の調和のとれた学びの三つの柱の三つ目の健やかな身体の育成について掲載しております。

学校の授業以外で運動をほとんどしない子どもがいることが報道等でも話題になっておりますが、10ページには札幌市の現状についてグラフで示しており

ます。

そして、健やかな身体の育成に向け、子どもが自ら運動・スポーツに親しもうとする態度や、食育をはじめとして健康な生活にも目を向け取り組む態度を身につけることなどについて示しております。

11ページには、発達の段階ごとの指導のポイント等を示しております。

次に、12、13ページの札幌らしい特色ある学校教育をご覧ください。

札幌らしい特色ある学校教育につきましては、すべての幼稚園・学校が共通に取り組むテーマである「雪」「環境」「読書」について掲載しております。

12ページの下段に示した読書が好きな子どもの割合のグラフからもわかりますように、各学校の取り組みによる成果も見られておりますが、札幌らしい特色ある学校教育が子ども一人一人の育ちにより一層確実なものとなるよう、テーマごとに育てたい力を明示しました。

13ページには、発達の段階ごとの指導等のポイントを示しております。

続きまして、14ページから18ページまでには、学校教育の今日的課題として、14ページの校種間連携、15ページの特別支援教育、ページをめくりまして、16ページの人間尊重の教育、17ページの国際理解教育、18ページの情報教育について示しております。

14ページにお戻りいただきまして、校種間連携につきましては、それぞれの学校段階の役割を明確にし、教育活動のさらなる充実を図るとともに、幼児児童生徒に対する一貫性のある教育を相互に連携協力して推進していくことの意義も踏まえ、幼稚園と小学校、小学校と中学校、中学校と高等学校の間の取り組み例を具体的に示しております。

15ページの特別支援教育につきましては、校種別や学級・教室別ごとの指導のポイントを示すなどの工夫をしております。

また、右側の縦長の部分になりますが、個別の教育支援計画を活用して保護者や関係機関と連携を図りながら、継続的な指導や支援を行うことについて、色をつけ明確に示しました。

16ページの人間尊重の教育につきましては、従来同様、札幌市において特に力を入れている民族教育、子どもの権利、男女平等教育に関する指導のポイント等について、参考資料の紹介もあわせて示しております。

17ページの国際理解教育につきましては、これまで表現力の育成として示していたコミュニケーション能力の育成について、今後、国としても外国語教育に力を入れていく方向であることを鑑み、外国語教育の充実という見出しに変更しております。

18ページの情報教育につきましては、教員のICT機器活用の一層の充実はもとより、子どもたちの情報活用能力の育成について、参考資料とともに示し

ております。

続きまして、19、20ページは、信頼される学校の創造について掲載しております。

信頼される学校の創造につきましては、これまでは学校教育の四つの柱の一つとして示してまいりましたが、この信頼される学校の創造は、学校教育の土台となる重要な事項であることから、独立して示すことといたしました。

19ページには、教員の指導力向上や資質の向上及び安全・安心な学校づくりについて、また、20ページには、家庭や地域とともに進める学校づくりとして、学校評価の活用と学校における地域教育力の活用について示しております。

最後に、裏表紙になりますが、これまでと同様に、札幌市民憲章、札幌市平和都市宣言、さっぽろ地球環境憲章、札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例（前文）を掲載しております。

なお、学校教育の重点の概要版につきましては、今後、教育委員の皆様のご意見を頂戴しながら、作成してまいりたいと考えております。

以上、平成26年度「札幌市学校教育の重点」について説明いたしました。ご協議のほど、よろしくお願いいたします。

○山中委員長 ありがとうございます。

大分整理されてきたように思いますが、この点をこうしてほしいとか、ここはこうすべきではないかというご意見があれば、お願いします。

○臼井委員 3点ありまして、最初の2点は確認、3点目が修正のお願いです。

確認は、10ページの体力についてグラフが載っているところです。

札幌市は、平成24年度と20年度を比べていますけれども、全国の参考が22年度となっております。24年度に対応する全国はないと理解してよろしいでしょうか。

○工藤指導担当係長 はい。

○臼井委員 わかりました。

次に、16ページです。小金湯にあるアイヌ文化交流センターの名前は、ピとカの間のが小さくなっております。これは、このように書くのが正しいのですか。

○工藤指導担当係長 はい。

○**臼井委員** これは、どんな発音をしたらよろしいのですか。

○**工藤指導担当係長** 一般的にはピリカと発音して良いです。

○**臼井委員** わかりました。

もう一点は、20ページの下の右側のグラフです。

「保護者や地域の人々の学校支援ボランティア活動を、学校の教育水準の向上に効果的に活用している学校の割合」で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」となっていますが、対応関係がわかりにくくなっています。

つまり、そういうようなことを活用していると思うか、そう思わないかと聞いたのだと思いますが、左側の質問に対する「大いに効果がある」、「ある程度効果がある」と比べて、対応関係が悪いので、検討いただきたいと思います。

○**指導担当部長** より適した表現がないか、もう一度確認したいと思います。

○**山中委員長** ほかにいかがですか。

○**阿部委員** 3ページ目の上の三つの柱の「未来に向かって」や「心豊かで」や「ふるさと札幌」という見出しの太字の部分は、変なところでスペースが入っていたり、バランスが悪くなっています。

ここは肝心なところだと思いますので、可能であれば改行など少し修正したほうが良いと思います。

○**指導担当部長** わかりました。

○**山中委員長** そのほかにいかがでしょうか。

○**池田（光）委員** 表紙の裏側に、「学校教育の今日的課題」とありますが、「信頼される学校の創造」として全体に網かけをしたのは、とても前進したと思います。その中の今日的課題というのは、例えば教師や校長先生はどういうふうに受けとめたらいい言葉なのかと思います。

今日的課題は、現代の課題であるので、これも重点を置いて進めてほしいという意味であれば、そういうふうに明確にすべきことかと思います。この今日的課題という意味合いはどういう位置づけで書かれているのでしょうか。

普通であれば、今年度の推進重点目標などになると思います。今日的課題を認識した上で、それを進めてほしいと言っているのか、そうでないのかについ

て曖昧な気がします。

○指導担当部長 これまでも今日的課題として、リーフレットでも示していましたが、社会や国のいろいろな動向の変化を踏まえて新たに取り組んでいく内容、あるいは、協調していく内容について、そのニーズを反映した課題として「学校教育の今日的課題」として表記したものです。

例えば、情報教育でいきますと、新しくICT機器等が整備されてきたとか、子どもたちの情報モラルの部分も含めた教育も非常に大事になってきています。国際理解教育も小学校で外国語活動が入ってきたという国の教育の動向、社会のニーズ等に応じて、こういうところは教育の新たな課題として捉えていくという部分を色濃く出していくことで、この5つを挙げております。

ただ、継続している内容も含めているので、今日的課題を出すときには、今、池田（光）委員からご指摘のありました趣旨を学校にも伝えることが大事だと思います。

○山中委員長 今の点は、14ページからそれぞれ1ページにわたって書いてあります。そして、基本的には、そういった問題について、こういう方向で推進していきますというようなことが書かれてはいます。

裏表紙の部分では、これをタイトルの的に書いてあるので、問題は、一見しただけでは、一体何をしようというのかわからない。その取り組み方向などが一見してわからないところに疑問があるということだと思います。

池田（光）委員の疑問について、このパンフレットにどこまで盛り込むかは、なかなか難しいと思います。今、部長がおっしゃられたように今後運営していく中での説明が非常に大事ではあるけれども、14ページ以下を見てほしいという形だと私は理解しています。

○指導担当部長 ここの、「知・徳・体」の調和のとれた育ちと札幌らしい特色ある学校教育というのは、私たちの捉えている大きな二つの柱です。この二つは、ある程度普遍的な要素だと思います。一方、学校教育の今日的課題については、その時々で変わる可能性もある重要施策であると捉えております。

それで、去年と同じ項目もありますが、内容的にかなり変わっているところもあります。そういった意味合いで、不変と流行でいうと、流行の部分も取り入れた内容が、学校教育の今日的課題に示させていただいている部分です。

○池田（光）委員 今日的課題なので、これはしっかりやりましょうということであれば、もう少し踏み込んで書いてもいいという気がします。

○山中委員長 趣旨としては、取り組んでほしいということだと思います。

ただ、それをタイトルとしてどこまで書くかは、なかなか難しいところがあります。推進すべきと書くのは、一つのあり方、考え方だと思います。

ただ、上で、平成26年度「札幌市学校教育の重点」と書いて、その中の一つですから、これらを重点として取り組もうというのは、「重点」という言葉でご理解いただけるのではないかというのが、この案かと思いますが、どうでしょうか。

○指導担当部長 そのとおりです。

○山中委員長 一般的にこういう書き方で、池田（光）委員が心配されているところは大丈夫ということでしょうか。一般的な受けとめ方としてどうなのかが問題点かと思います。

○指導担当部長 学校としては、今まで、この柱で来ている部分がございます。ただ、今ご指摘があったように、校長会等のいろいろな場面で、これについてはしっかりと説明をして、特に新年度は冊子にしますので、趣旨、内容等も含めていろいろな機会でも周知していかなければならないと思っています。

○山中委員長 重点という中に書いてあるから、当然、それは推進するということに取り組んでいってほしいという意味はわかっていると理解しておきます。よろしいでしょうか。

○池田（光）委員 はい。

○山中委員長 ほかにいかがですか。

○池田（光）委員 19ページの信頼される学校の創造は、今までの四つの柱から本当に分離していただいて、とてもよかったと私は思います。もしかしたら、もう一步踏み込んで、第1部は、札幌市の教育の自立した札幌人は学校や教育委員会や先生たちが行っていく、第2部として信頼される学校づくりを創造していくというぐらいに分けてもいいと思います。

これは表裏一体の関係にあるかもしれませんが、分けて考えるぐらいの書き方ですね。そういうふう考えたほうが信頼される学校の創造の内容がもっと深まっていくのではないかと思います。信頼される学校の創造のために、

先生たちや地域や家庭がどうしたらいいのかというところにも、重点を置くか、書き込んでいくのがいいのではないかと感じています。

○山中委員長 どうでしょうか。

○指導担当部長 1ページの表紙の裏に示させていただいたように、知・徳・体と札幌らしさと学校教育の今日的課題のすべてについて、学校が充実した活動を進めて子どもを育てていくことが、信頼される学校の創造につながるということです。

そういう子どもたちを育てるための教員の資質向上や環境整備、地域や家庭との連携がそこに含まれるという意味で、今回は2ページを使って、今までの形よりも力を入れようと思ひまして、ページを割かせていただいたところであります。

信頼される学校の創造は、実は一番大きな土台となることは変わりありません。今回、四つの柱を分けて2ページにしましたが、その三つの大きな柱をつくっていくのが学校の創造で、そこに教師や家庭等の連携が入るという形で構成させていただきました。

○池田（光）委員 これで十分だと思ひていますがけれども、教員の指導力や資質の向上、それから、地域の活動も同じように信頼される学校づくりのために協力し合っていこうという方向性をもっと加わってくると、さらに充実してくるような気がしたのです。

今年度は、分けていただいて、すごくわかりやすくなったと思ひます。今後、そういうところも含めて検討していただければありがたいと思ひます。

○山中委員長 2ページにわたる場合、1ページ目に教員の指導力や資質の向上で、次に、安全・安心な学校づくりと防災の関係が中心になっています。その後、家庭や地域という形になりますが、こういう順のほうがいいですか。

今、池田（光）委員がお話になった順序を考えたほうがいいという気もします。ただ、そうすると、今度は、2ページ目に移るものを分断する形になります。それを避けるためにも、つながりとしてはこれで良いかと思ひます。

○池田（光）委員 前年度よりはステップアップしています。

先生たちと地域、家庭がどれだけ協力し合っつくり上げていくかということをもっと打ち出していける形がいいと思ひます。

○山中委員長 ここをつながるほうがつながり方としてはいいと思います。ただ、問題は、学校の安心・安全という物理的なことを最後に持っていくことによって、2番目のところが切れてしまう感じもあります。

○指導担当部長 流れとしては、ご指摘があったようなこともあるかと思いますが、ここは1ページ割かせていただいて、信頼される学校の第1番目には、何といても教員の資質向上だろうというところで、1番目にさせていただいた部分ではあります。

○臼井委員 今、部長がおっしゃったことで、信頼される学校になるためにはとなると、やはり、教師がしっかりと子どもの発達の姿を見ていて、子どもを育てていくという力がしっかり保障されていることが学校に対する信頼の一番根幹をなすものではなかろうかと思います。

どれが一番ということは簡単に言えないと思いますが、教師の研修で力をつけることが最初に出てくるのは、自然な形かと思います。

○山中委員長 今、私や池田（光）委員が言ったのは、最初にある教員の指導力や資質の向上を後回しに持っていくという意味ではないのです。教員の指導力や資質の向上を最初に持ってくるのはいいと私も思います。

池田（光）委員もそうですね。

○池田（光）委員 はい。

○山中委員長 ほかにいかがでしょうか。

○町田委員 20ページの次の札幌市民憲章は裏表紙ですか。

○工藤指導担当係長 裏表紙に市民憲章などをつけて、裏表紙の裏は白くなる予定です。

○町田委員 1ページもったいないので、少し加えてもいいかと思いました。

○山中委員長 もったいないけれども、形としては、市民憲章が最後にひっくり返して見えるほうがいいですね。

さっき、順番の問題があったので、思いついたのですが、表紙の裏のさっきの今日的課題は、こういう形をとると、順番から校種間連携が上位概念に見ら

れる心配があります。実際にはこれらは全部、並列的に考えているものと思います。むしろ、最後の部分を空白にして、校種間連携を最初に持ってきても構わないと思います。

○**工藤指導担当係長** 今回の校種間連携は、基本計画でも重視しています。新しく入れたものですから、こちらに一つ出しております。

○**山中委員長** ほかのとのバランスですね。

○**池田（光）委員** この5つと説明文の順番が違うのは、特に意味はないのですね。

○**指導担当部長** 今、ご指摘いただいたところは、校種間連携、特別支援、人間尊重教育の次に国際理解が来ているので、もしかすると、国際理解教育と情報教育を逆にしたほうが見やすいかもしれません。

○**山中委員長** 細かいところ言えば、写真で簡単に説明をつけているところとつけていないところがありますが、写真の内容がわかるものとわからないものがあります。

○**指導担当部長** 3ページや5ページの写真につきましては、カット的に入れている部分もあります。そのほかは、活動がわかるように入れています。

7ページの中学生職場体験という形で、6ページには出ていないので、入れるところは入れて、カット的なところは除きたいと思います。

○**山中委員長** 6ページの一番下の左は、何をやっているか、わかりません。

恐らく幼稚園段階だと思いますけれども、テーブルみたいなもので隠されているので、なおさらわかりにくくなっています。

○**指導担当部長** 写真にはタイトルをつけます。

これは、何をやっている写真ですか。

○**山田指導担当係長** 色水を使って外で遊んでいます。フルカラーだと様子がわかります。

○**山中委員長** ちょっと説明があるとわかりやすいので、写真のサイズをほん

のちょっと小さくして、説明を入れるなどを考えたほうが多い気がしました。

○山田指導担当係長 わかりました。

○山中委員長 さっきのサッポロピリカコタンも、説明が飛び出しているのです、少し工夫したらいいと思います。多分、これは研修の関係だと思いますけれども、もう一回チェックしていただいたほうがいいかと思います。

○臼井委員 表紙として、これはすっきりしていいと思いました。

○阿部委員 左側は、バックがモノクロで、「札幌市学校教育の重点」という文字も黒で、ぱっと見たときに、周りのカラー部分や時計台に目が行ってしまいます。この教育の重点という文字の色を変えるか、大きくするか、もう少し上に上げて時計台を下げるなど、デザイン上、せつかくのタイトルが少しぼやけている感じがします。そこを少し工夫したほうがといいと思いました。

○山中委員長 事前に、札幌らしいものをバックに入れたほうがいいのか、カーブを使ったほうがいいのかという話をさせていただきました。しかし、札幌らしい三つのものを入れたのは、ちょっと入れ過ぎという気がします。

最初に見て思ったのは、全部が体育系に偏っているのではないかということです。琴をやっていたり、絵本を読んでいる絵もありますが、勉強している絵がありません。

○阿部委員 意図的にそうしているかと思いました。絵として、机があって、椅子に座ってというのが余りそぐわないから、運動系になっているのだと思いました。

○指導担当部長 指導室の中でも、運動系が多いという話がありました。ただ、活動を中心ということと、幼小中高の変化と、実は札幌市は今回、縄跳びを小学校の施策として打ち出しているものですから、そのアピールという意味合いも込めて縄跳びを重視しましょうということで入れております。また、部活動の活性化も図っていかなければならないことから、バスケットの写真も入れたということです。

○山中委員長 読み聞かせもあります、読書関連も入れたらいいと感じまし

た。

○池田（光）委員 この冊子は、各学校に配られて、学校で皆さんが見ますね。また、ポスター化することなども考えると、自立した札幌人を大きな言葉で、常に目につくようなあり方のほうがいいと思います。

いろいろな写真もいいと思いますが、そういうことも議論していただければありがたいと思います。

どのような形にしても、自立した札幌人が思い切り出てくるような表紙のあり方がいいのではと思います。それによって、あの大きなパネルにしたときにも生かされると思います。

この重点が、どのように使われていくのかもお聞きしたいと思います。

○指導担当部長 札幌市学校教育の重点につきましては、まず、学校長が学校経営方針を立てる場合に、札幌市の教育の内容を知るために活用されるというのが一義的にあります。

その次に、これは用務員から学校の事務も含め全員に配りますので、学校の中でこれを使って、あるいは、学校長の経営方針と同時に見て、1年間の学校教育の内容等について確認します。

私たちは、今回、表紙に書かせていただきましたが、校内研修だけではなくて、札幌市教育委員会やいろいろな委員会主催の研修会の中でも、これを持ってきていただいて、活用するという内容の周知等を考えております。そのような形で、常に手元に置いていただいて、これに立ち戻っていただきながら、日々の教育実践に当たっていただくことを目指しています。

自立した札幌人につきましては、1ページめくった中にもありますし、基本計画でも大きく打ち出していることから、ある程度は浸透してきているかと思っています。

この重点についてはこの形で進めさせていただいて、自立した札幌人は、重点の表紙をめくったところで、あるいは、教育振興基本計画で詳しく解説されているので、そちらを見ていただくような形で進めてはどうかと思います。

ただ、ポスターにするときは、自立した札幌人は大きく目につくものとしていく必要があると思います。

○池田（光）委員 最初に見たときのインパクトが大事であると思います。表紙の裏に書いてあることがなかなか読まれないこともあるかもしれないので、思い切って、表紙に書くのも手かと思いました。今年度はいいですが、次年度に向けての課題として、一つ提案させていただきたいと思います。

○山中委員長 目につくという点では、ポスターが目につきます。

○指導担当部長 保護者、市民向けに、1枚物で概要版をつくる予定ですので、そちらには自立した札幌人は当然打ち出していきたいと思います。

○池田（光）委員 白石区には、しろっぴーというゆるキャラがいます。家庭で見てもらうきっかけになるようなものが各地域、各学校にあるかもしれません。教育のキャラクターを思い切ってこの中に入れるのはどうかと考えました。親しみをもってもらうためにも、次年度に向けて、そういうことも検討していただければありがたいと思います。

○山中委員長 課題の一つとして、指摘したいと思います。
さきほどの体育系に偏っていることが気になります。

○指導担当部長 時間がありますので、表紙はこちらで考えさせていただいて、またお送りしたいと思います。

○山中委員長 ほかにいかがですか。

（「なし」と発言する者あり）

○山中委員長 それでは、この内容は確定として、写真については保留ということよろしいですか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○山中委員長 それでは、平成26年度の「札幌市学校教育の重点」については、多少の修正はいたしますが、基本的にこの内容で決定といたします。

続いて、議案第2号からは公開しない議案となりますので、傍聴の方は退席をお願いいたします。

以下 非公開